

2026年2月6日(金) 13:00~16:45 2月7日(土) 10:00~12:00

実データ時代の数理科学：理論と実践の接点

東京、赤坂インターシティコンファレンス 4F: the Amphitheater

趣旨

近年、データ科学は社会のさまざまな分野に浸透しつつある。しかし一方で、実データ解析に用いられる数学理論は必ずしも十分に深化しておらず、理論と応用の間には依然として大きな隔たりが存在している。特に、日本国内においては、抽象的な数理科学の成果が実データ解析の現場で十分に活かされず、またデータ科学の実践から理論的なイノベーションが生まれる機会も限られている。

本研究会では、数理科学とデータ科学の接点に立ち、理論の深化と応用の革新を双方向から促す。理論と実践の両面で活躍する研究者を招き、参加者とともに異説争論を通じて、現代の実データ時代における数理科学の役割と可能性を探りたい。単なる意見交換ではなく、理論と実践の協働による分野を超えた新たな研究の芽を生む場を目指す。「自由は不自由の際に生ず」のだ。

参加登録（参加費無料）

<https://forms.gle/VYxjxk8SiaasPuQa7>



会場

赤坂インターシティコンファレンス 4F: the Amphitheater

〒107-0052

東京都港区赤坂1丁目8-1 東京都港区赤坂1-8-1 赤坂インターシティAIR

※ 東京メトロ銀座線・南北線「溜池山王駅」14番出口直結

<https://aicc.tokyo/>

主催・共催

PRESTO, JSTさきがけ「未来数理科学」、大阪大学蛋白質研究所：蛋白研セミナー

世話人

谷地村 敏明（東北大学）、飯田 溪太（大阪大学）

プログラム（タイトルを正式版に更新中）

2026年2月6日(金)

- 12:00– 受付開始
- 13:00–13:30 飯田 溪太（大阪大学）
「数理最適化 ≠ 生命科学が求める最適化」が生む障壁への挑戦
- 13:30–14:10 中野 允裕（NTT株式会社）
極値的冗長性を用いた統計的機械学習と生体情報処理への応用
- 14:15–14:55 小松 瑞果（神戸大学）
(仮) Scientific Machine Learningにおける計算代数的アプローチ
- 15:00–15:20 休憩
- 15:20–16:00 橋本 悠香（NTT株式会社）
Koopman作用素を用いたニューラルネットワークの汎化誤差評価
- 16:05–16:45 早水 桃子（早稲田大学）
(仮) 距離情報の正確なグラフ表現とデータ可視化における有用性
- 18:??– 討論会

2026年2月7日(土)

- 10:00–10:40 小林 徹也（東京大学）
数理と諸分野との関わりの難しさ：生命科学、企業まで
- 10:45–11:25 入谷 亮介（理化学研究所）
高次元モデルの構造的縮約理論とデータ科学への応用可能性
- 11:25–11:35 休憩
- 11:35–12:00 荒井 迅（東京科学大学）
(仮) データなんて見たくなかった
- 12:00– 討論会・閉会

※ 正式な講演タイトルは、2026年1月頃に順次更新する予定です。